

第 3 回松田町文化センター複合拠点化検討協議会  
議事要旨

1. 日 時 平成 29 年 11 月 30 日（木）14 時～16 時
2. 会 場 松田町役場 3 階 防災対策室
3. 出席者 委 員：古舘信生氏（会長）、吉田恵美子氏、木口まり子氏、武尾哲治氏、  
関野敏樹氏、岡本安夫氏、香川義美氏（副会長）、村野幸男氏、  
水田秀子氏、堀真記氏、遠藤洋一氏  
事務局：政策推進課（吉田参事、柳澤、小野）  
教育課（川崎）  
ランドブレイン株式会社（田中、山内）

---

※以下「・」：委員意見、「→」：事務局回答

1. 開会  
・吉田参事
2. 議題  
(1) 第 2 回検討協議会議事の確認  
・資料 2 について政策推進課より説明  
→第 2 回協議会については、松田町民文化センターの複合拠点化に向けた活用方策の検討を行い、委員からは施設の活用方法の課題や可能性等ご意見頂き、論点整理を行った。  
→松田町民文化センター複合拠点施設化にあたっては、「町民のための拠点施設である事」「広域的に魅力的な拠点施設として町外からの来訪・集客を図る」の役割を果たしていきたい。  
→施設の運営方法について、直営および指定管理の違いを整理し、他市町の運営方法の確認を行った。  
(2) 松田町民文化センター複合拠点施設化に向けたコンセプトの確認  
・資料 3 について政策推進課より説明  
→松田町民文化センター・松田町立公民館のこれまでの目指していたところとして、「住民の教養の向上や生活文化の振興等に寄与する混合施設」、「末永く、親しみ、愛される施設」と整理した。また、これから目指していく方向性について、「町民のための拠点施設」、「広域的に魅力的な拠点施設として町外からの来訪・集客を図る」と整理をした。  
→上記を踏まえ、従来担っていた機能の表現は入れず、新たに付与される機能、また従来のものがどのように変わっていくかという視点で具体的な活用イメージの整理を行った。  
→町民にとっての振興施設という視点について、教育・文化の振興、スポーツ・未病の振興、国際交流の振興について具体的な活用イメージの整理を行った。  
→広域的にみた集客の視点について、映画の上映やパブリックビューイング、大型イベントの開催が考えられる。スポーツ未病の観点については、新たな体験イベントとして「観る・するスポーツ」をコンセプトに県西部のクライマーが集まる場所にしていくこと。国際交流の魅力について、海外と日本の双方向性があるイベントを創出していくことが考え

られる。

- 賑わいが生まれる施設という視点について、施設の利用価値及び利便性を高めること、また、町民が集まりたくなる場、町民が活躍できる場をつくることが重要である。
- 施設のキャッチコピーについて、「Weave」と提案する。「織りなす」という意味であり、色々な機能が絡まり、何か新しいものを織りなすという意図がある。あくまで参考としてご提示しているため、これをそのまま使うかどうかも含め、ご意見を頂きたい。

#### <ご意見、質問など>

- ・施設の活用方策案について、新しい活用方策について記載されているが、これまでの使い方のベースが記載されていないと、従来の機能が失われてしまうのかと誤解を生んでしまう恐れがある。
- ・施設の活用方策案について、事務局でこれまでの町民の文化的なものや従来の機能について分かるように再整理するとよい。
  - 従来のベースを前提に、これに新たな機能を付与するという言葉で整理したい。
- ・施設のキャッチコピーについて、複合拠点施設は多機能が織りなすということで事務局から「Weave」と提案頂いた。このように施設のコンセプトを表すキャッチコピーまたは文章についてあればよいと思う。
  - 補足資料の説明として、複合拠点施設を端的に表す表現について、「人がつながり、多様な文化（教育・学習・発表・国際・スポーツ・食）を織りなす場」を創ろう、目指していこうということを言葉として整理をさせて頂いた。
- ・国際交流の広域的な魅力について、「外国人が日本の伝統芸能や郷土料理を体験できる機能の創出」とは随分大きく出た内容であると思った。郷土料理とは日本の郷土料理全体を指すのか。公民館機能の学習する場を残すことを前提としたとき、果たして町民が学ぶ場であるのか整理して頂きたい。「松田町の自然や文化に触れられる着地型観光」について、着地型観光とは松田町に留まり、観光することであるが、松田町の文化は何があるか具体的に整理をして頂きたい。かつて「どんど焼」が有名であった。素晴らしい文化であり、そのようなものを復興させるとよい。どんど焼は15歳が頭になり、こどもが仕切り、火を扱う文化である。日本独自の文化であり、松田町の文化を学ぶことが公民館の役割なのではないかと思う。また、地域にお囃子や笛があった。地域集会施設を大切にいくと、足柄上郡でどんど焼が盛んになり、町内だけでなくよそからも来訪すると思う。国際交流については、外から来る外国人だけでなく、まず町内にいる外国人を大切に頂き、拠点にして交流して頂きたい。
  - 日本の伝統芸能や郷土料理について、松田町には色々な文化がある。例えば大名行列については、大ホールと連携し、見てもらい、体験してもらうことが出来ないか考えている。歌舞伎についても舞台には松羽目板が残るため、有効活用していきたい。
  - 公民館の役割について、どんど焼きなどの文化を伝えるために、こんなことをやっているよという松田の魅力を発信できる場所として文化センターが活用でき、外国人等へ情報を発信できればよいと思う。
- ・国際交流について、町民が国際交流意識をもつ「松田イズム」を持たない限り、効果がないと思う。町民が公民館で外国について学び、意識を高めることによって、はじめて国際交流と言えると思う。そのような松田イズムをもっている人達を増やしていければと考える。
- ・国際交流について、付け焼刃の国際対応では、外国人は関心を持たない。地域に根差した場所や資源を掘り起こさないと魅力は伝えられないと思う。在住外国人を大切にするということも重要な視点である。在住外国人は、国によってどういう事情で来ているのかが分かる。そ

のような分析と合わせて、個性を活かせる方を発掘し、活躍して頂くことが国際交流の始まりであるとする。松田町は在住外国人が60人であるため、必ず発掘できると思う。松田の良い所を発掘し、文化施設での活動に繋がる分厚い話になればよいと思う。

- ・町民文化センターについて、現状の利用状況、また、スポーツ施設を取り入れるとどうなるかを知りたい。私の所感では町民文化センターは寂しい雰囲気がある。施設に新しい機能を入れて活性化することは分かるが、もっと人が集まるためのテコ入れをしていかないといけないと考える。現状、公民館に関する意見では、公民館を「守る」という視点の議論が多く、今あるものをもっと良くしていくことで施設全体を盛り上げていけば良いと思う。
- ・図書館について、広域的な貸し出しや子どもコーナー設置に取り組んでいる。本年度は幼稚園に200冊程貸し出しを行っており、図書館を知って貰うという活動を積極的に取り組んでいる。図書館の利用者数は増加しており、今後も更に利用して頂けるように進めている。
- ・会議室の利用状況については如何か。
  - 施設の利用のデータ状況の分析については、整理して情報提供していきたい。
  - 施設の利用について、ピーク時は平成6年で文化センターと各種部屋の利用が12万人を超えていた。平成17年は約3万件である。大ホールの利用によって利用人数が大きく変り、また、昨年度から一般貸出を中止しているため利用者数は大きく変動している。大ホールの収益がないと収入部分が減少するため、収入部分は最大4,000万程度の差が生じている。
- ・図書館について、私は1市5町の各図書館を視察してきたことがあるが、松田町の子どもコーナーは、他移設ではなく、素晴らしいものである。通常こどもの読み聞かせイベントではドアを閉めて開催するのに対し、松田町では、周りに本が囲まれておりオープンにしている。とても魅力的なものであり、良いところは伸ばしていきたい。
- ・子どもコーナーについて、運用時期から読み聞かせイベントに取り組んでいる。松田ならではのものと認識しており、乳幼児から本を親しむことを目的に進めている。
- ・図書館について、ぜひ機能をキープして取り組んでほしい。
- ・複合拠点施設の考え方について、教育文化の振興、スポーツ・未病の振興、国際交流の振興が大きなテーマとなるが、新しいものを一つ一つやるだけでなく、今までやってきたことを繋げていくことも必要ではないかと思う。良いところは伸ばすかたちで進めてほしい。
- ・スポーツライミングについて、資料の内容については良いと思う。また、学校のスポーツとして、スポーツライミングに取り組んで頂けるとありがたい、そのための小中学校の教員の方向けへの講習もできれば良いと思う。
- ・ホールの利用について、ボルタリングの機能により、利用頻度は増えていくのではないかと思う。
- ・町民文化センターの大ホールについて、どのように利用促進していくか考えることが必要である。大ホールを修繕したからお客さんがくるものではない。近隣にもホールがあり、同じような催しをして足の引っ張り合いはしたくない。松田町民文化センターは「大ホールをどういう風にするのか」というテーマ性を持って決めていくことが重要であるとする。
- ・イベント等の活用方策について、賑わいづくりがポイントであると思う。コンサートをやるからといって人は集まらない。イベントはあくまで手段であり、イベントの主催者は賑わいがある場所にイベントを持って来る。誰も人が集まらないところにはイベントを持っていかない。町民のみなさんが利用して集まっている場所があること、公民館の施設も活用しながら賑わいのある施設を作っていくことが大切であるとする。
- ・イベント等の活用方策について、賑わいがあるところにイベントをすることでさらに賑わい

が生まれる。町民の利用を活発化させることが賑わいに繋がると思う。

- ・国際交流について、松田町のボランティアで登録して頂いている方が約 30 人いる。毎月 1 回会議を行っており、8 月から人が増えている。理由の 1 つに、外国籍の方が「国際」というワード検索で、松田町がヒットして登録したそうである。そのようなきっかけもあり、会議では、在住の外国籍の方を大切にすべきだという議論もしている。食や国の文化などの交流の機会を検討しており、町民文化センターで利用できればと思う。
- ・国際交流の取組みについて、外国人の留学生を呼んでクイズを行った。午後は健康福祉センターで、パワーポイントで国の紹介等トークイベントを行った。慣れない日本語で 15 分ずつ紹介し、とてもあたたかい会になった。告知については、児童数分の配布をしたが、トークイベントに来ていただいた方がいなかったことが残念であり、こどもの教育については学校との連携を大切にしていきたいと考えたい。
- ・複合拠点施設について、町民にとっての拠点は変わらないと思う。より具体的にみなさんのご意見を頂いてよりよい施設にしていきたいと思う。
- ・複合拠点施設について、ボルダリングがウリになるが、競技人口等の実態はいかがか。
- ・競技人口については、詳細に掌握できていない。小さいスペースのボルダリング施設がいくつか作られており、かつて県内では 2 施設であったが、今は 3~40 の施設がある。料金は、1 日使用料が 2,000 円、夕方 6 時から 1,500 円が相場である。リードクライミングという競技については、平成 10 年に秦野市で施設が出来た。県内ではその 1 施設がリード競技用である。2020 年にはスピードという種目もあり、リード・ボルダリング・スピードの 3 種目がある。日本では男女 2 人ずつ出られる。そのような施設の中で、神奈川県山岳連盟では、クライミング教室を実施しており、オリンピックの育成ではなく、安全の技術講習を行っている。だいたい 20 人前後の募集で満員になる状況である。秦野市では、定期的に体験イベント実施しており、申込も多い状況である。  
→競技人口について、全国で約 60 万人であり、柔道や剣道の競技人口と同じくらいと言われている。都心であれば民間ジムが沢山ある。また、松田町には民間のジムが 1 つあるため上手く連携していきたい。
- ・クライミングスポーツは、積極的に商業をされているため、これから普及していくツールであると思う。上手く利用し、足固めをすることでチャンスが来るのではないか。
- ・施設のクライミングスポーツについて、リードとボルダリングの両方を持っている施設は他にない。客席のあるボルダリングは貴重であり、施設の強みを上手く活用して頂きたい。
- ・施設のクライミングスポーツについて、民間のジムとの食い合いはないか。  
→施設の利用にあたり、大ホールを借りるとお金はかかり、使える日としてどれだけ一般開放できるのか整理が必要と考えている。また、本施設では、普及という側面があるので、単純に開放して稼ぐことを想定していない。今あるジムの方との連携をしていきたいと考えるのでバランスを考えて事業者さんと協議していきたい。
- ・複合拠点施設のテーマについて、「教育文化スポーツ未病国際交流」に違和感がある。ここで言う「スポーツ」はボルダリングだけであり、寄生木の体育館などの柔道場や剣道場はここに含まれない。国際交流もこれから作っていききたいというまだない機能に対してテーマを打ち出していることに違和感がある。  
→スポーツ未病のテーマについて、クライミングの競技人口を増やすことを目的としていない。今回設置するものは初級~中級レベルのものとしており、誰もがチャレンジできるもの、運動するきっかけとなるものであり、競技的な施設でなく、運動しようというコンセ

プトにしている。

- ・複合拠点施設のテーマについて、「多目的に使えるホール」という発信なら理解できる。  
→「教育文化スポーツ未病国際交流」という言葉が毎回発信されることに違和感があるという意見だと思う。どのような場面でどのように発信するか、テーマのバランスを考えて整理し、発信していきたい。
- ・複合拠点施設の方向性について、今ある文化的な施設をキープし、かつ発展させながら、新しい拠点として多機能を集約し、町民が活用することで、町の賑わいを作っていく方向となる。その点を踏まえながら、資料を具体化していき、一つのコンセプトを作り上げたいと思う。

### (3) 松田町民文化センター複合拠点施設の活用方策・運営に関する検討

- ・資料4についてランドブレインより説明  
→資料について、松田町民文化センター複合拠点施設をどのように進めて行くかについて整理をしている。文化センター、共用部、公民館があり、現状役場で管理している。ホールについては、利用が年々減少しており、寂しい状態となっている。公民館については、営利目的の利用や個人利用、飲食等ができない。町民の学ぶ場であるが幅を拡げるとき制約があるかと感じている。
- 活用方策については、「利用頻度を上げること」「利用料の設定」「お金を取ることのできる質の高い学習機会の提供」が考えられる。また、文化祭で試験的に販売したということを知っているが、町民が活動できることが発信できる、活躍できる場所になれば良いところであると考えられる。また、普段から住民が集まってくるための魅力づくり、賑わいづくりに取り組んで行くことが必要である。
- 活用方策の検討事項として、運営の方法について、町が考えるだけでなく民間ノウハウを入れること、町民の利用を促進させることである。また、利用制限の検討、利用料金の検討も必要ではないかと考える。また、施設の魅力のPRについて、こどもコーナー等今ある魅力を町民に知ってもらうこと、認知度を高めることも重要である。
- 今後施設の活用促進として、町民が集まる仕掛けとして、町民が主体となる協議会を作り、民間に任せただけでない方法で利活用していくことが必要である。町民が集まることにより、賑わいが生まれ、外から民間も利用するようになり、施設の魅力が高まる。また、人が集まると近隣店舗等への波及効果も見込まれ町全体で活性化すると考える。体育館や自然文化があるが、まずは文化センターに来てもらい、発信できる場所として核となる拠点になれば良いと思う。
- 文化センターに関して、興行部分が必要であるため、指定管理に捕らわれず、民間ノウハウを取り入れた方策を考えたい。公民館部分については、民間に委ねて町民が使えなくなると本末転倒になるため、バランスを考えていかないと運営方法が定まらないと考える。
- 運営手法について、民間ノウハウを入れて大ホールを利用するとなると年間150回程度の催しができるといわれているが、委託料が発生するので今かかるコストから更にかかる。委託の場合は、今あるコストを減らしながら、より良いイベントを増やしていけるようにバランスを考えて検討していきたい。また、町で運営する場合、どこまで魅力的なイベントを呼ぶことができるかが課題である。館長さんやマネージャーを雇い、イベントを打つ方法、また、町民の主体的な活動として協議会が取りまとめながら、年間このくらい使いたいという取り決めもできれば良いかと考える。単純に指定管理や管理委託、直営が良いという話ではないので、どのような形で人が集まり、利用促進を進めるかという視点をふまえて、運営方法についてより具体的に詰めていく必要がある。

<ご意見、質問など>

- ・運営手法について、民間ノウハウを活用することは重要であるが、具体的にどのような方向性で進めていく予定なのか。
  - 運営手法について、例えば南足柄市では指定管理制度で施設の修繕含めて委託をしているため、多額の委託料を支払っている。松田町の施設は古いために、施設自体の管理も民間にお願いすることはリスクがあるのではないかと思う。施設の修繕部分では町直営と整理している。施設の認知度、実績について初年度で何かが生まれる訳ではないため、5年～10年という長期契約の中で仕掛けていくことが必要と考える。
- ・運営方法に関して、前回頂いた資料で、近隣の施設で秦野は色々なイベントを呼んでいる。秦野市は協議会があるみたいだがどのように取り組んでいるのか。
  - 秦野市の運営方法については、詳しく情報収集したい。
- ・運営方法について、町としてはどのようにしていきたいと考えているのか。
  - 確実にこの方法で行くということを決めていない。例えば、前回図面でお話ししたような形で伝えたように、運営方法についてはイメージ段階である。皆様のご意見を頂きながら検討していきたい。
- ・運営方法について、委託料を支払いコストがかかっても、施設の利用促進に繋がるため、町としてメリットがあるというが、運営の部分だけを民間にお願いするというのでよいか。
  - 運営方法を決めるにあたっては、費用の検討が必要である。新しいことを進めるにあたっては、ランニングコストは避けて通れない。しかし良い事業だから何千万かけても実施するという事は難しく、また、町の職員だけで取り組むには限界がある。3年後～5年後を見据えて委託料を減らしていきながら進めていければと考える。
- ・施設の費用について、スポーツは専門性が必要なため、新しい費用がかかると思う。
  - 新たな部分では費用がかかる。費用がかかる部分で稼ぎがコストを上回れば良いが、どこまでできるかは検討したい。コストはなるべく下げるようにする。
- ・ホールについて、雨漏りも改修され、以前に近い形で利用でき、スポーツもできるということではよいか。
  - その通りである。また、ステージ後ろの反響版はなくなったが、照明や音響設備の更新などでメリットもあるため、施設全体としてのトータルバランスで評価して頂きたい。
- ・スポーツ部門での施設管理について、スポーツ部門も民業を圧迫しないことを考えると単純に委託運営するのは厳しいと思った。どこに収益の軸を持ってこないといけないかを決めていく必要がある。
- ・指定管理制度について、この制度はそもそもの問題点があると感じている。指定管理制度は、施設の基本的な管理維持をお願いするものの、細かいところに目がいかななくなる恐れがある。施設のハードの部分とソフトの部分を頼むと単なるお任せになってしまい、本当に町のためになるのかを気を付けなければならない。上手く、直営の部分も含めた整理をすることが必要であると思われる。

(4) その他

- 第4回の会議日程は、12月21日(木)の10時からに設定する。
- 本日の議題で整理が必要だった部分、資料3を綺麗な形にしてご提示したいと思う。また、運営方法については、持続可能な方法はどのようなものか整理していきたい。町のイベントがどこまであり、民間イベントがどこまでできるかシミュレーションの上、管理委託制度について次回ご議論頂きたい。従来の利用状況も整理してお出ししたい。

以上